

4. 秋田工業に5年も6年も在籍した理由

1) 調査の背景

秋工百年誌掲載の「秋田工業の学生改革」若杉威氏（S25E卒）の記事で、秋田工業に5年も6年間も在籍した人が1000人もいたことが述べられている。また、これまでの会報KANASAには4年から6年の在学した同窓生の記事が数件掲載されている。しかし、なぜそうなったのか理由が分からず十分理解出来ないままだった。そこで、終戦前後の出来事を整理し、直感的に分かる「学制変遷図」の作成に挑戦した。

変遷図の作成過程で制度変更により、新入生や在校生がどのような扱いを受けたのか、収集した資料や、過去の会報KANASAなどを調査したが、が明文化されていない事柄が多く推定で「学制変遷図」を作成した。

これを若杉威氏（S25E卒）に確認依頼したところ同様な図を作成して頂き、相互に意見交換して1ヶ月ほどかけてやっと完成したものである。その結果が次頁に掲載の監修：若杉威（S25E）作成：加賀谷健治（S36E）「県立秋田工業 終戦前後の学制変遷図」である。

2) 学制改革の変遷

県立秋田工業学校	小学 6年	高等科 2年	工業学校 3年
秋田市立商業学校		商業学校5年	
秋田県立秋田中学校		中等学校5年	

(1) 戦前の制度

- i. 小学6年・高等科2年・工業学校3年

(2) 昭和19年度の戦時臨時処置

- i. 県立秋田中学校・秋田市立商業学校・県立秋田工業学校（航空機科）・秋田市立工業学校など中等学校の修学年限を5年から4年に短縮。
- ii. 秋田市立商業学校は昭和22年度終了をもって廃校の予定となり、生徒募集停止。秋田市立工業学校設立。
- iii. 県立秋田工業学校に航空機科設置（ただし、小学6年卒入学修学年限4年）

(3) 昭和20年度の「戦時臨時処置」

- i. 県立秋田工業学校は市立工業と重複している採鉱科、冶金科の募集を停止。
- ii. 県立秋田工業学校は高等科2年卒業で入学し修学3年で卒業を、小学6年卒業で入学し修学4年で卒業に変更した。これにともなって、高等科1年2年終了者を配慮して次の取り扱いをした。（この扱いが判明し作図が完成した。）

昭和19年の工業1年生は工業3年生に、工業2年生は工業4年生とそれぞれ1年多い学年に進級した。

さらに、高等科2年卒業者は工業2年生に入学し、高等科1年終了者の一部の成績優秀者も工業2年生に入学を認められた。しかし、ほとんどの高等科1年修了者は、小学校6年卒業者と一緒に1年生に入学した。このように高等科を修業した生徒の殆どは小学6年卒業より1年多く修学することになった。

- iii. 4月、廃校となった秋田市立秋田工業学校採鉱科・冶金科の生徒は県立秋田工業学校に編入。工業化学科は県立秋田工業学校に移管された。

この年の採鉱科・冶金科は、市立商業での入学試験だったため、県立秋田工業で採用した機械・電気・土木・建築の4科と異なり、高等科からの編入者はいなかった。

v. 終戦により8月31日航空機科は機械科Bと名称変更。

昭和19年度	昭和20年度	備考
工業2年	工業4年	工業2年から工業4年に
工業1年	工業3年	工業1年から工業3年に
高等2	工業2年	工業2年に編入
高等1	成績優秀者	工業2年に編入
	工業1年	工業1年に編入
小学6		工業1年に入学

(4) 昭和22年度の「学制改革」

- i. 小学6年・中学3年・高校3年・大学4年となる。
 - ii. 新制高等学校に転換する経過処置として秋田中学・秋田商業学校・秋田工業などの中等学校の修学年限4年の制度を廃止し、小学6年卒業で入学し5年間修学で卒業する、旧制中等学校の制度を採用した。
- さらに、新制高校に進学するために新制の中学に相当する併設中学2年と3年を秋田工業学校内に設置した。

昭和22年度	昭和23年度	昭和24年度
※=中等年4 工業4年	=中等5年 高校2年	
		高校3年
併設中3年	高校1年	高校2年
併設中2年	併設中3年	高校1年

※昭和22年度工業4年卒の制度が廃止され昭和23年度中等科5年卒に1年延長された。このため秋田工業には昭和23年3月の卒業生はいない。

(5) 昭和23年度

- i. 校名が「秋田県立秋田工業高等学校」となる。
- ii. この年は中等科5年修学の資格で昭和24年3月に卒業するか、翌年高校3年で卒業するか選択できた。

(6) 昭和24年度

- i. 昭和25年3月新制工業高校1回生卒業。

4. 秋田日満工業学校について

この内容は秋田県教育史掲載の要約である。

満州国建国にともない、昭和13年（1938年）5月秋田日満技術工養成所として財団法人鉄工技術員協会によって設立された私立の実業学校。学校建築や設備費は満州国政府から交付され、1年次と2年次に満州語を履修することが大きな特徴だった。

昭和19年（1944年）4月秋田日満工業学校と改称された。3年間の全寮制にして、5民族（日本 満州 朝鮮 蒙古 白系ロシア）の俊英が学び、終了後は満州国において技術指導者となり、満州鉱工業の発展確立と日満両国鉱工業界の渾然一体化を図ることを目的とした。

昭和20年（1945年）太平洋戦争の終結と共に満州国も終焉し、本校も廃校となった。廃校後の生徒の一部は秋田工業に編入された。

跡地は、昭和21年9月秋田市立商業学校の校舎に使用された。

以上